

視察日時	令和7年7月7日（月） 午後1時30分～午後3時
視察先	広島県尾道市（説明：福祉保健部子育て支援課）
視察項目	子どもの未来を拓く！子どもの居場所創出プロジェクトの取組について
視察概要	<p>（1）プロジェクト発足のきっかけ</p> <p>平成28年度に行った「尾道市子どもの生活実態調査」の結果では、子どもの貧困率が13.7%、母子世帯の子どもの貧困率が69.9%と高いことがわかり、「必要な文具や教材が買えなかったことがある」「学校がないと学習をまったくしない」などの回答があった。この結果から、すべての子どもが将来への希望を持って成長できる環境が必要ということでプロジェクトを発足させた。</p> <p>（2）プロジェクトの具体的取組</p> <p>①子どもの居場所支援事業（子ども第三の居場所）</p> <p>現在、3か所（b&g尾道、b&g因島、子どもの学び舎向島リーフ）設置している。尾道と因島は「常設ケアモデル」であり、尾道社会福祉協議会に運営を委託している、向島は「学習・生活支援モデル」であり、こちらは尾道市が直営している。ここでは体験活動の創出を目的として「夜の広島空港見学ツアー」や「弁護士と行く裁判所見学」などの体験活動を提供している。</p> <p>②子どもの学習支援事業</p> <p>国庫補助を受けて市内2か所（尾道・因島）で小4から中3を対象に週1回行い、6年度の延べ人数で2か所計1,700人を超える子どもが学習支援を受けている。</p> <p>③子どもの居場所づくり事業（子ども食堂）</p> <p>子ども食堂などを実施する団体に対し、開設及び運営にかかる費用を助成する事業で補助対象経費の2/3、上限10万円（学習支援は5万円）の補助を行い、実績として7団体に61万5,000円の補助を行った。</p> <p>④子どもの居場所づくりネットワーク事業</p> <p>子ども食堂や学習支援に取り組む団体（R6年度末22団体）の連携体制を整備するために、社会福祉協議会内にコーディネーターを設置し、子ども食堂開設等の相談業務やフードドライブ業務などを行っている。</p> <p>⑤地域密着型フードパントリー事業（まちかどフードパントリー尾道）</p> <p>食品ロス削減と低所得の子育て家庭への食事支援を目的として、R6年度まで3か所オープンし、R7年度以降あと4か所オープン予定。</p> <p><まちかどフードパントリー尾道 4つのポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フードメイト（利用者）、フードパートナー（提供者）はともに登録制 ・パントリーの入り口は電子ロックを使用し、寄付物品はオンラインでデータベース管理 ・専用アプリで在庫情報や開設時間の情報を確認でき、入荷情報をプッシュ通知で情報発信

・パントリー内に冷蔵庫・冷凍庫を設置し、常温、冷蔵、冷凍を問わず受取可能

(3) 事業の効果と今後の取組

これらの事業を通じた効果として、子どもは自己肯定感が高まり、自分の将来に夢や希望を持つことができるようになるとともに、学ぶ楽しみを知り、将来の自立に必要な力を身に付けることができる。

保護者にとっては、相談支援を受けて仕事に就くことで生活の安定につながり、また交流の場の提供などにより、孤立感が軽減され、安心して子育てができる環境が整う。地域では学校や地域の中で手が届かないところへの支援が期待できることから、子どもの家庭生活への不安が軽減され、地域社会全体の安定が図られる。

(質疑)

①子どもの居場所支援事業(子ども第三の居場所)

<質問>子どもの居場所支援事業で因島のスタッフ5人に加配とあるが、何に対する加配なのか。

<答弁>因島には発達課題のある子どもへの加配である。

<質問>体験活動について主体はどこか、年何回か、お金がかかるか?

<答弁>尾道と因島については運営委託先の社会福祉協議会、向島は市が主体となる。広島空港の見学ツアー、裁判所見学、進水式の見学などの各種の体験活動は市内企業からの寄付や個人の寄付で支えられている。年に10回程度の開催。子どもからは基本的に費用は頂いていない。

<質問>費用について施設整備、ソフト面がかかっている費用と日本財団、B&G財団からの助成がいくらか?また助成期間の3年が終わった時点で市の持ち出しはいくらになるのか?

<答弁>施設整備でb&g尾道、b&g因島がそれぞれ5,000~6,000万円、運営費では2,000万円程度がかかっている。施設整備、ソフト面予算とも100%補助で市の方に移管してからソフト面では子ども子育て支援交付金対象で国が1/3、県が1/3、市が1/3負担となっている。

向島リーフでは設計・建設工事費計で7,260万円ほどかかったが、B&G財団から5,000万円の助成があり、不足分を市が負担。運営費は、年間1,000万円ほどかかるが、3年間はB&G財団から960万円の助成がある。

令和7年度の予算で3か所の予算総額5,470万4,000円で補助額がB&G財団からの助成を含め、3,640万円なので市の持ち出しが1,800万円程度となる。

②子どもの学習支援事業

<質問>この事業による成果、効果について

<答弁>年に1回アンケートを取っており、その中では成績が伸びたとか100点が取れることが多くなったとか、日頃の勉強の確認ができ、授業内容がわかりやすくなったとか、高校受験についても詳しく教えてくれるといったような声が出ている。

また、中学3年生はすべての生徒が希望する高校への進学に繋がっている。

＜質問＞この事業に参加する資格がひとり親家庭等生活保護受給世帯となっているが、この事業に参加することにより、ひとり親、生活貧困だということが分かってしまうということで参加をためらうということはないか？

＜答弁＞この事業を始めるにあたってそこは一番心配したところで、あそこに行っている子はそういう家庭の子だという、いわゆるスティグマというものを生まないか心配したが、実際、始めてみると、それ以上に家庭での学習とか生活に困っているという状況があり、通うことで子供が少しでも良くなるのであればとのことで、むしろ積極的に活用していただいていると思う。利用についても、必要であると思われる方に直接お声掛けをするようなアウトリーチの手法をとっており、学校の先生にもご協力をいただきながら、利用した方がいいだろうと思う方に直接お声掛けはさせていただいている。

③子どもの居場所づくり事業（子ども食堂）

＜質問＞子ども食堂の参加人数、開催頻度は？団体数は？

＜答弁＞参加者は把握していない。頻度は大体月に1、2回。3回やっているところもあるが、1回のところが多い。子ども食堂をやっている団体は18か所。

＜質問＞どんな団体が主体となっているか？

＜答弁＞NPO、一般社団法人など法人の形を取っているところもあれば、地域の地区社協主体であったり、民生児童委員、保健推進員が中心に行ったり、PTAがPTA活動として行っているところもある。

④まちかどフードパントリー尾道

＜質問＞アプリで管理しているとのことだが、市で作成したのか、既存のものを利用したのか？費用はいくらかかったか？

＜答弁＞この事業は社会福祉協議会が行っており、アプリも社会福祉協議会で新たに作ったものであり、費用的には1,000万円ぐらいと聞いている。

＜質問＞フードパントリーの運営体制は？

＜答弁＞フードパントリーは基本的に無人で運営している。不審なものを持ち込まれたりしないように防犯カメラを設置し、利用者でないと入れないように電子ロックとしている。社会福祉協議会の担当の職員が定期的に巡回して食品の補充、現場の確認等を行っている。担当の係長を含め正規職員が2名（兼務）、会計年度任用職員が専任で1名配置している。

＜質問＞食品を寄付するフードパートナーの現状は？

＜答弁＞ファミリーマートが協力企業に入っている。今は、学校給食に納品される青果店が商品にならないような野菜をよくご寄附していただいて。また、高齢者の介護施設等の給食では、冷凍の惣菜などを作る工場が在庫として残った冷凍食品などをご寄附いただいたりと、どちらかというところと小売りではなく卸会社からたくさん寄附をいただいている。

<p>所 感 (意見・感想・ 今後の課題等)</p>	<p>今回の視察では具体的な事業に対してたくさんの質問が出された。報告書に記載した質問以外に日本財団やB&G財団からの助成をうまく活用している点についての質問も出され、それに対して市と社会福祉協議会が連携して事業継続に向けて詳細な計画を立てて申請を行っているという説明があった。また、現市長がもともと教育長で、子どもの教育・育成支援には理解があり、市長自らが事業のアピールのためトップセールスも行っているとのことだった。</p> <p>本市としても子どもの貧困の状況を把握した上で、必要な事業を選別し、その事業を行う際に日本財団、B&G財団などの助成の対象になるかどうかなどの可能性を追求し、今一度子どもの貧困対策の強化していく部分の検証を行い、社会福祉協議会との連携の中でフードパントリーの設置など貧困対策の強化していく必要があると思慮する。</p>
------------------------------------	--

報告者 厚生常任委員会 尾形 昌彦